

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700026		
法人名	有限会社 めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホーム 中野方めぐみ		
所在地	岐阜県恵那市中野方町3564-3		
自己評価作成日	平成23年9月8日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/info/mati/onPublic.do?JCD=2191700026&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笠置山のふもとに広がる田園の中に位置し、落ち着いた木造の室内と広い庭で、のんびり・ゆっくり流れていく時間の中で、四季の移り変わりを毎日感じながら、「花あり・歌あり・笑いのある施設」を目標に、利用者一人ひとりがいつも明るい笑顔でその人らしく毎日すごしていただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の笑顔や会話が増えることに喜びを感じ、それらを引き出すケアに取り組んでいる。また、「地域との関わりは必要であり、大切にしていこう」と川掃除、クリーン活動、祭り当番など地域行事には積極的に参加し、地域の一員としての役割を果たしている。近所の方が芋や道具を持参して、利用者と一緒に焼き芋を楽しんだり、毎月、孫を連れて童話の読み聞かせに来てもらうなど、地域の方とも気軽に事業所に来ていただく関係を築いている。先の台風上陸時には、利用者全員が公民館に避難し一夜を過ごし地域の方の炊き出しを受けた。その体験から避難方法、避難時の注意事項、利用者のケアなど事業所の災害対策の見直しに繋がった。また、法人施設間で防災対策本部を立ち上げ、備蓄品の充実や地域避難所としての活用など地域との連携や協力を働きかけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、その人らしく生きがいを持って暮らせるように、常に考え支援している。	利用者・地域・職員が共に豊になることを目指した法人の理念に沿って取り組んでいる。また、ミーティングで理念を確認し各自レポートを提出して共有を図っている。しかし、理念が事業所独自のものとなっていない。	事業所が実践している地域密着型サービスの意義を踏まえて、事業所独自の理念を職員と共に作り上げることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に組み入りし、行事やお祭り・老人クラブ等には積極的に参加交流し、挨拶や会話等に努めている。	野菜を頂いたり、花の種や苗の交換をしている。クリーン活動・神社の祭り・敬老会・文化祭りの作品展に参加している。回覧板でAEDや地震体験車などの講習会の参加を呼びかけ一緒に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知についての講習会などを行うなどし、認知症の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの取り組みや避難訓練等を行い、会議より出された意見はサービスの向上に活かしている。	会議では、事業所の実情報告・対策本部の進捗状況・感染予防対策などを話し合い、毎回全員から感想や意見・要望を聞いている。避難時の脱出口の提案などをサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは必要に応じて事業所の実情を伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村に出向き、書類の作成や制度上の相談などを行っている。市派遣の介護相談員と事業所、行政との連携について意見交換も行っている。また、運営推進会議の土日開催の要望を伝え協力を求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびすべての職員は身体拘束をしないケアを理解し、それに取り組んでいる。	職員は、外部研修や社内研修で身体拘束及び虐待をしないケアを理解し取り組んでいる。夜間、トイレに起き方には、ベッドからの転倒防止に注意し行動制限をしないよう努めている。また、玄関の扉も見守ることで開けたままの時間も、鍵はかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が高齢者虐待防止関連法を十分理解し、虐待のないケアに取り組んでおり、講習等・ミーティングで学べるようにして虐待の防止に努めている。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・講演会等に積極的に参加し、情報を共有して活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は、十分に説明を行った上で、不安や疑問・質問には、納得がいくまで丁寧に説明して、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見や要望等は、来訪・面会時等に機会を設け、また、利用者には日常的にいつでも表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	事業所通信を送る際に本人の作品を入れ様子を伝えている。面会時には必ず声をかけて、会話しやすい雰囲気づくりをしている。面会が少ない家族には電話で聞いている。また、家族アンケートからも結果を検討して運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングはもちろん日常の中での提案や意見を聞いて必要に応じて話し合いの場を設け、反映させている。	管理者は、職員と話しやすい関係を築いており、日頃から提案や意見など聞いている。物品購入など検討が必要な場合は、全職員が参加するミーティングで話し合っていて決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況の把握、職員個々と定期的に面談をしながら、誰もが向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習等に積極的に参加し、それらの情報を共有し合いながら、段階に応じた育成に努め、働きながらそれらを活かせるトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会東濃支部への参加、交流会・研修会等に参加し、他ホームからの意見や情報を参考に、向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自身の話しやすい場所で、話を聞く機会を作り、不安や困ったことを素早く察知し、それを取り除くことで、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で家族とじっくり話し合い、不安や求めていることを十分に理解し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	健康診断やサマリー等も含めて、まず必要としている支援を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で人生の先輩あるという尊厳を持ち、喜怒哀楽をいつでも共にして、職員も人生の先輩に学び、お互い支え合いながら、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の小さな変化も報告し、必要に応じて面会等を促したり、家族の交流の場の設定をしながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本院の気持ちをたいせにして、友人等の面会・外出等の支援をしている。	小学校の跡地で同級生と会ったり、友人を訪問したり来てもらうなどの支援をしている。民生委員と地元の敬老会に行ったり、墓参り・法事・兄弟会では家族と出かけるなど、地域や家族の協力を得ながら馴染みの継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように支援している。利用者同士がコミュニケーション取れるように支援している。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者・家族が必要としている限り、断ち切らないように関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向の把握に努め、その人らしい暮らしができるように支援に努めている。	夜間、居室や入浴中にゆっくり話しをしながら思いを聴いている。ふさぎ込んだり、寂しそうな様子の時は、好きな事を一緒に行ったり、昔話や親の話をして気持ちを共にすることで和まれる事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から今までの生活や、サービスの利用状況を詳しく聞き、利用者が今までと変わりなく生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・職員日誌・夜間記録・業務終了報告書・申し送りノート・個別ノート等で職員全員が把握している。また有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・その他関係者と話し合いながら、それぞれの意見やアイデアを取り入れ、本人がより良く暮らすための介護計画書を立てるように努めている。	職員日誌に個々の評価を記録し、毎月ミーティングでモニタリングを行い介護計画を作成している。見直し時は、本人・家族の要望も取り入れている。また、要望や状態変化時には、医師の意見も聞きその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・個別記録・夜間記録・職員日誌等で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や状況に応じて、柔軟に対応できる支援に取り組んでいる。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や必要に応じて、地域のイベントの見学やボランティアの受け入れをし、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師による月2回の往診がある。体調の変化があれば、随時報告・連絡し、対応の指示を受け、診察のための支援をしている。	本人・家族の希望でかかりつけ医に受診できるが、同意により協力医に変更している。月2回の訪問診療を受け、通院時には職員が同行している。結果は家族に報告して、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師に相談したり、かかりつけ医の看護師に相談し、主治医との関係を密にしながら、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者が安心して過ごせるように、職員が定期的に面会に行き、洗濯物・物流補給等をし、医療機関からの情報を職員全員が把握し、本人・家族の不安を取り除き、早期退院に向けて連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については方針を共有している。更なる医療機関や家族等との連携を強化して、職員の統一した支援形態で細やかな支援をしている。終末ケアについては医療機関の対応を基本としている。実際には終末ケアに近い支援であるケースもある。	契約時に経口摂取が困難となり入院が必要となった場合、利用継続できないことを説明し了解を得ている。状態の変化のたび、医師・家族・職員と相談しながら事業所が出来る最大の支援を検討し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成して、全職員が対応できるようにわかり易い場所に提示している。緊急時の対応はミーティング等で訓練し、AEDについては消防署で講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得られるように働きかけている。AEDの講習や地震体験車の体験の機会を作っている。職員は避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように努めている。	夕方に夜勤帯の体制での避難訓練も行った。運営推進会議で協力的な意見もあり見学をしてもらっているが、地域住民と一緒に避難訓練が実施されていないため、次回に計画をしている。	災害時には地域と連携や協力が不可欠である。運営推進会議での協力的な意見を更に地域住民に広め、住民参加の避難訓練等の実践に向けた取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけをするように、職員は十分に注意している。不適切な言葉使いをした時は、その都度別の場所でお互い注意している。	一人ひとりの生活歴を把握し、プライドを傷つけない言葉かけや対応に心がけている。失禁時は、分からないよう居室へ誘導して対応している。食事や居間での席は、個々のプライドや相性に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人ができるだけ決定できるように、力に合わせた説明で納得できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、介護側の都合にならないように、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれ・化粧は本人の希望を優先して、美容院等は本人の望むところに行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物の希望を聞き取り入れたり、体調や力に合わせて、準備や片付けを職員と楽しみながら、一緒に行っている。季節料理や郷土料理が楽しめるように支援している。	頂いた新鮮な野菜を利用して、利用者の希望を聞き季節感を採り入れた献立にしている。野菜の下ごしらえ・配膳や後片づけなどを一緒に行っている。また、会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に応じて、しょくじの量や栄養バランス・水分量は確保できるように把握し、注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きをし、困難な利用者は口腔ケアで対応している。口腔ケアの講習会等に参加し、誤嚥性肺炎等の予防に努めている。		

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを職員は把握し、できるだけ自立で排泄できるように、声かけをし促したり、その人に合った排泄用品を利用することによって、気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄確認表をもとに、個々の排泄パターンを把握し、昼間はできるだけトイレで排泄出来るよう誘導している。夜間はポータブルトイレを置いてあるが、時間を見て声かけトイレ誘導することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れ、水分も十分に摂取できるようにしている。また、散歩や毎日ラジオ体操をし、できるだけ自然排便ができるように支援している。便秘が続くような時は、かかりつけ医による投薬にて排便のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本院の希望を考慮しながら、気持ちよく入浴していただくように、職員の勤務時間の中で、入浴支援している。	一日おきの入浴を基本としているが、本人の希望により毎日でも入浴が可能である。昔話をしたり、窓を開けて外の景色を見ながら露天風呂気分を味わうなど、楽しい入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じながら、昼寝は自由に行っている。昼寝されない利用者は、野外での散歩・ゲームをしたり、家事参加することによって適度な運動になり、良い睡眠ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や容量は理解している。常に症状の変化の確認に努め、体調に変化があればかかりつけ医に報告し、指示等を受け適切な投薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が楽しみたいことや役に立ちたいという気持ちを大切に、喜びや達成感を感じるために、畑仕事や草取り・カラオケ等を体調に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法事や兄弟会・なじみの地域の敬老会の参加、花火・夏祭り等へ出かける機会を作り支援している。	天気の良い日は、敷地内の庭で外気浴や散歩をしている。折々に花見や棚田、近くのダムに出かけている。時には、行き先を決めずにあてもなくドライブに出かけ、利用者を楽しんでもらっている。	

グループホーム中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的に家族が管理している。一部の管理能力のある方は所持している。必要に応じてお金が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できるだけ自由に電話のやり取りをしている。毎月家族等に塗り絵に手紙を書いて送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や置物で季節感を感じられるように配慮し、夏はよはずで光を遮り、居心地良く過ごせるように工夫している。	日中過ごす食堂や居間は、天井が高く日当たりが良い。利用者数に合わせてソファを増やし、皆がテレビの前に座れるようにしている。庭で作った花を玄関や居間、廊下などに飾って季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今のソファや食事のテーブルで、一人ひとりに合った場所で、気の合った同士の会話やカラオケ・ゲーム等を楽しんだり、一人で新聞を読んだりできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの物を本人と相談しながら、好みの場所に置き、家族・知人等からのプレゼントやホームで作った作品などを置くように工夫している。	本人や家族と相談して、掛け軸や人形、置物など本人が大切にしていたものを置き、家族や旅行の写真なども飾っている。ベッドやタンスは、使いやすく配置して暮らしやすい配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりがわかる力を理解し、わかりやすい説明、混乱しない物品等を置き、手すりの設置を増やし、杖などの使用で安全に自立した生活ができるように工夫している。		